

平成 22 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鶴鳴学園

<平成 22 年度事業報告書>

学校法人 鶴鳴学園

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災という未曾有の大災害が発生した。本学園においても、短大の学友自治会、高校の生徒会を中心に募金活動に取り組み義援金を贈ったところである。

当年度は、短大においては奈良佐保短大との相互評価を実施すると共に、文部科学省の「特色教育推進事業」(教育 GP)に採択されるなど新たな活動に取り組んだ。高等学校においては「就学支援金」の交付初年度となった。幼稚園においては、国の課題である「幼保一体化」への具体的検討が動き出したので今後注視していきたい。

I. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1)耐震化工事

耐震化については、平成 21 年度に耐震診断を短大学生寮と高校第一体育館を実施し、平成 22 年度においては耐震診断結果を受けて、耐震化設計と耐震化工事を実施した。

(単位：円)

| 種別 | | 業者 | 金額 | 備考 |
|---------|-------|--------|-------------|----|
| 高校第一体育館 | 耐震化工事 | あけぼの建設 | 24,150,000 | |
| | 設計監理 | 彦設計 | 2,532,500 | |
| 短大学生寮 | 耐震化工事 | あけぼの建設 | 92,565,350 | |
| | 設計監理 | 建友社設計 | 9,000,000 | |
| 計 | | | 128,247,850 | |

(2)耐震化工事に関連した工事

(単位：円)

| 種別 | | 業者 | 金額 | 備考 |
|---------|-----------|--------|------------|----|
| 高校第一体育館 | 屋根・床等改修工事 | あけぼの建設 | 17,295,210 | |
| 高校進入道路 | 拡幅工事 | あけぼの建設 | 23,520,000 | |
| 高校南門 | 新設工事 | ヒラタ建設 | 1,995,000 | |
| 旧第一幼稚園 | 園舎解体工事 | あけぼの建設 | 9,450,000 | |
| 計 | | | 52,260,210 | |

(3)施設設備関連

①短大校舎外壁改修工事

1号館学生ロビー棟の外壁タイルに亀裂が生じていたため、全面的な改修工事を実施した。(単位:円)

| 部 門 | 内 容 | 業 者 | 金 額 | 備 考 |
|-----|---------|------|-----------|-----|
| 短 大 | 外壁タイル改修 | 協栄興業 | 6,150,000 | |

②電話設備の更新

高校、短大の電話設備関係の経年劣化により交換機を含めて全面的な置き換え工事を実施した。(単位:円)

| 部 門 | 内 容 | 業 者 | 金 額 | 備 考 |
|-----|--------|---------|-----------|-----|
| 短 大 | 電話設備更新 | NTT 西日本 | 2,520,000 | |
| 高 校 | 〃 | 〃 | 1,669,500 | |

(4)高大連携教育

平成 22 年度は、例年同様に高校 1 年次においては全員対象の短大見学訪問、2 年次・3 年次においては志望コースに応じた体験学習を実施した。また、短大教員が高校に出向いての「出前講座」も 2 回実施した。

昨年に引き続き、短大、高校の学園祭に相互出演を計画し、短大からは高校の文化祭（鶴鳴祭）に「短大コーナー」を設けて、生徒や保護者たちとの交流の場を持った。高校からは短大の文化祭（弥生祭）に地域でも郷土文化活動として評価を得ている龍踊部が出演し連携を深めた。

(5)幼大連携教育

短大附属幼稚園としての位置づけをより鮮明にするため、定期の短大幼児教育学科学生の幼稚園実習に加えて、1 年生の週 1 回の体験学習を受け入れている。

(6)キャンパスの美化

110 余年を越える女子校としての伝統を深めるためにも校舎内外の清掃・美化活動には日常的に取り組んだ。

(7)短大の相互評価への取り組み

短大においては、奈良佐保短大との相互評価に取り組み、自己評価報告書の交換と 10 月には相互の訪問調査を実施し、相互の現状について率直に意見交換を行い、互いの優れた点、足りない点を指摘した。年度末には「相互評価報告書」として冊子にまとめた。

(8)短大の生活情報専攻の「生活総合ビジネス専攻」への名称変更

短大の生活情報専攻の魅力化を図るために、「生活総合ビジネス専攻」への名称変更を行い、カリキュラムについても一般企業、医療事務、航空ビジネス分野への進路を目指した内容に改変した。

(9)「大学教育改革推進プログラム」(教育 GP)への取り組み

短大が「長崎食育学を活かした食文化伝承と情報発信」をテーマとした取り組みが、文部科学省の「大学教育改革推進プログラム」に採択された。3カ年事業であり、初年度の平成22年度は19,078千円の補助金の内示を受け、食物栄養専攻を中心に事業推進に取り組んだ。3月3日には総勢52名が参加して「大学教育推進プログラム初年次報告会」を開催した。

(10)地域との連携及び開放

短大各学科・専攻で実施している公開講座、開放講座の他、学校施設の開放にも積極的に取り組んだ。

短大公開講座

| 学科・専攻 | 講座名 | 開催期日 | 受講数 | 開催地 |
|--------|--------------------------|---------------------|-----|----------|
| 食物栄養専攻 | ①長崎の郷土料理調理・試食 | H22.6.26 | 18名 | 島原 |
| | ②長崎よか膳料理試食会 | H23.2.5 | 37名 | 本学 |
| 介護福祉専攻 | ①福祉レクリエーション | H22.6.26 | 47名 | 本学 |
| | ②らくらく介護講座 | H22.10.23 | 21名 | 本学 |
| | ③介護人材育成確保対策事業 | H22.8/2～9/5 (7回) | 70名 | 本学・五島・島原 |
| 幼児教育学科 | ・障がい児の世界と発達保障 ・音の教材研究 | H22.8.24 | 39名 | 本学 |

(11)短期大学における主な取り組み

- ①九州地区9短大での共同研究「コンソーシアム九州」のFD研修を幹事校として開催
- ②「大学教育推進プログラム初年次報告会」を開催
- ③平成22年度自己点検評価報告書の作成
- ④奈良佐保短期大学との相互評価を実施し「相互評価報告書」を刊行

(12)高等学校における主な取り組み

- ①「ながさき私学魅力アップ事業」への取り組み
- ②「平和学習」への取り組み
全生徒による「平和といのちを考える」真心短歌集の刊行

原爆被爆者語り部による講演、平和コンサートの開催

③生徒会誌「真心」を刊行

④生徒・保護者・教職員による学校評価の実施

(13)附属幼稚園における主な取り組み

①子育て支援事業「わくわくクラブ」の実施

②プレ入園「2歳児教室」の実施

③食育への取り組み

④環境整備（園庭の芝生化等）への取り組み

⑤保護者・教職員による自己点検評価の実施

2. 入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数（平成23年度入試）

<短期大学>

| | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|--------|----------|----------|----------|----------|
| 推薦入試 | 148 | 148 | 148 | 147 |
| 自己推薦1期 | 9 | 9 | 7 | 6 |
| 自己推薦2期 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 一般前期 | 14 | 14 | 14 | 11 |
| 一般後期 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 社会人 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| 合計 | 199(242) | 199(241) | 197(232) | 192(222) |

()は前年分

※社会人には職業訓練校委託分11名を含む

<高等学校>

| | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|------|----------|----------|----------|----------|
| 推薦入試 | 65 | 65 | 65 | 65 |
| 一般入試 | 244 | 239 | 229 | 74 |
| 合計 | 309(393) | 304(385) | 294(368) | 139(154) |

()は前年分

<幼稚園>

| | 年少(3歳児) | 年中(4歳児) | 年長(5歳児) | 計 |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 進級児 | 4 | 28 | 30 | 62 |
| 転入・入園児 | 18 | 12 | 0 | 30 |
| 合計 | 22(27) | 40(30) | 30(52) | 92(109) |

()は前年分

3. 学生・生徒の就職・進学状況（平成22年度卒業生）

<短期大学>

| | 卒業数 | 就職希望 | 就職決定 | 未定 | 就職率 | 備考 |
|------|-----|------|------|----|--------|----|
| 食物栄養 | 38 | 36 | 35 | 1 | 97.2% | |
| 生活情報 | 33 | 30 | 28 | 2 | 93.3% | |
| 生活福祉 | 26 | 25 | 25 | 0 | 100.0% | |
| 幼児教育 | 91 | 87 | 84 | 3 | 96.6% | |
| 合計 | 188 | 178 | 172 | 6 | 96.6% | |

<高等学校>

| 内訳 | 卒業数 | 決定 | 未定 | 決定率 | 備考 |
|----|-----|-----|----|--------|--------|
| 進学 | 102 | 102 | 0 | 100.0% | 国公立大学6 |
| 就職 | 20 | 19 | 1 | 95.0% | |
| 合計 | 122 | 121 | 1 | 99.2% | |

II. 財務の状況

1. 平成22年度決算の概要

<消費収支計算書>

消費収支決算においては、消費収入合計 838,064 千円、消費支出合計 1,079,595 千円であり、消費収支差額は△241,531 千円である。これは短大学生寮、高校第一体育館の耐震化工事、小島奨学基金の基本金組入等による基本金組入額が 313,918 千円となったためである。なお、翌年度繰越消費収入超過額は△456,315 千円である。

<資金収支計算書>

資金収支決算においては、当年度収入合計が 1,096,104 千円、当年度支出合計は耐震化工事等により 1,173,524 千円であり、次年度繰越支払資金は 77,420 千円減の 2,573,118 千円となった。

<貸借対照表>

資産の部の総額は 7,165,823 千円であり、負債の部 481,684 千円、基本金の部 7,140,454 千円、消費収支差額の部△456,315 千円となり、正味資産（資産－負債）は 6,684,139 千円となった。

2. 3カ年の収支の状況

平成20年度においては、学生生徒等納付金収入、補助金の減少等により 8,669

千円の支出超過となった。

平成 21 年度においては、短期大学の在籍総数が 468 名から 417 名に減少したこと、高等学校においても依然として支出超過であることから 45,931 千円の支出超過となった。翌年度繰越消費収支においても 323,260 千円の支出超過となっている。

平成 22 年度においては、短大学生寮の耐震化工事、高校第一体育館の耐震化工事と改修工事、併せて高校進入道路の拡幅工事等による第 1 号基本金への組入れ、また、小島特別奨学基金の増額に伴う第 3 号基本金組入れ等に伴い、当年度の消費収支差額は 241,531 千円の支出超過である。翌年度繰越消費収入超過額は△456,315 千円となった。

3. 消費収支計算書（平成 20 年度～22 年度）

○消費収入の部

（単位：千円）

| 科 目 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 学生生徒等納付金 | 684,333 | 642,558 | 637,310 |
| 手数料 | 11,289 | 11,586 | 9,277 |
| 寄付金 | 4,517 | 1,350 | 40,843 |
| 補助金 | 256,513 | 261,327 | 314,347 |
| 資産運用収入 | 27,142 | 25,409 | 19,913 |
| 事業収入 | 78,574 | 70,038 | 74,289 |
| 雑収入 | 9,430 | 36,927 | 56,003 |
| 帰属収入合計 | 1,071,798 | 1,049,195 | 1,151,982 |
| 基本金組入額合計 | △ 601 | △5,527 | △313,918 |
| 消費収入の部合計 | 1,071,197 | 1,043,668 | 838,064 |

○消費支出の部

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 人件費 | 598,321 | 625,685 | 621,165 |
| 教育研究経費 | 356,181 | 334,954 | 317,138 |
| 管理経費 | 124,079 | 126,030 | 121,650 |
| 資産処分差額 | 827 | 686 | 19,471 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 458 | 2,244 | 171 |
| 消費支出の部合計 | 1,079,866 | 1,089,599 | 1,079,595 |
| 当年度消費収入超過額 | | | |
| 当年度消費支出超過額 | 8,669 | 45,931 | 241,531 |
| 前年度繰越消費支出超過額 | 269,364 | 277,550 | 323,260 |
| 基本金取崩額 | 483 | 221 | 108,476 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 277,550 | 323,260 | 456,315 |

4. 資金収支計算書（平成20年度～22年度）

○資金収入の部

（単位：千円）

| 科 目 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 学生生徒等納付金収入 | 684,333 | 642,558 | 637,310 |
| 手数料収入 | 11,289 | 11,586 | 9,277 |
| 寄付金収入 | 4,517 | 926 | 409 |
| 補助金収入 | 256,513 | 261,327 | 314,347 |
| 資産運用収入 | 27,142 | 25,409 | 19,913 |
| 資産売却収入 | 3 | | |
| 事業収入 | 78,574 | 70,038 | 74,289 |
| 雑収入 | 9,430 | 36,927 | 56,003 |
| 前受金収入 | 147,659 | 155,809 | 136,478 |
| その他の収入 | 103,251 | 13,743 | 66,012 |
| 資金収入調整勘定 | △ 146,570 | △ 183,601 | △ 217,934 |
| 前年度繰越支払資金 | 2,375,632 | 2,595,047 | 2,650,538 |
| 収入の部合計 | 3,551,773 | 3,629,769 | 3,746,642 |

○資金支出の部

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 人件費支出 | 598,321 | 625,685 | 644,758 |
| 教育研究経費支出 | 218,208 | 200,462 | 204,630 |
| 管理経費支出 | 106,175 | 108,031 | 103,572 |
| 施設関係支出 | | 913 | 192,558 |
| 設備関係支出 | 13,362 | 21,546 | 37,552 |
| 資産運用支出 | 7,167 | 7,000 | 36,005 |
| その他の支出 | 25,649 | 27,125 | 19,655 |
| 資金支出調整勘定 | △ 12,156 | △ 11,531 | △ 65,206 |
| 次年度繰越支払資金 | 2,595,047 | 2,650,538 | 2,573,118 |
| 支出の部合計 | 3,551,773 | 3,629,769 | 3,746,642 |

5. 貸借対照表（平成20年度～22年度）

○資産の部

（単位：千円）

| 科 目 | | 平成20年度末 | 平成21年度末 | 平成22年度末 |
|--------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 資 産 | 固定資産 | 4,512,580 | 4,396,327 | 4,529,952 |
| | 有形固定資産 | 3,705,943 | 3,577,371 | 3,659,976 |
| | その他の固定資産 | 806,637 | 818,956 | 869,976 |
| | 流動資産 | 2,603,201 | 2,686,842 | 2,635,871 |
| | 合 計 | 7,115,781 | 7,083,169 | 7,165,823 |

○負債の部・基本金の部・消費収支差額の部

| 科 目 | | 平成 20 年度末 | 平成 21 年度末 | 平成 22 年度末 |
|--------|------|-----------|-----------|-----------|
| 負 債 | 固定負債 | 296,629 | 296,629 | 273,037 |
| | 流動負債 | 166,996 | 174,788 | 208,647 |
| | 計 | 463,625 | 471,417 | 481,684 |
| 基 本 金 | | 6,929,706 | 6,935,013 | 7,140,454 |
| 消費収支差額 | | △ 277,550 | △323,260 | △456,315 |
| 合 計 | | 7,115,781 | 7,083,170 | 7,165,823 |

Ⅲ. 法人の概要

1. 学校法人 鶴鳴学園

所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

理事長：原田 延介

2. 設置する学校・学部・学科等及び学生・生徒・園児数 (H22.5.1 付)

(1)長崎女子短期大学 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

学長：江副 功

| 学科・専攻 | 入学定員 | 収容定員 | 1 年生 | 2 年生 | 在籍合計 |
|--------------|------|------|------|------|------|
| 生活科学科 食物栄養専攻 | 80 | 160 | 61 | 39 | 100 |
| 〃 生活情報専攻 | 40 | 80 | 36 | 34 | 70 |
| 〃 生活福祉専攻 | 40 | 80 | 19 | 28 | 47 |
| 幼児教育学科 | 100 | 200 | 114 | 93 | 207 |
| 合 計 | 260 | 520 | 230 | 194 | 424 |

(2)長崎女子高等学校 所在地：〒850-0834 長崎市上小島 1 丁目 11 番 8 号

校長：柳川 伸一

| 学 科 | 入学定員 | 収容定員 | 1 年生 | 2 年生 | 3 年生 | 在籍合計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|
| 普通科 | 170 | 510 | 154 | 153 | 122 | 429 |

(3)長崎女子短期大学附属幼稚園 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 2 号

園長：犬塚 光男

| 区分 | 収容定数 | 3 歳児 | 4 歳児 | 5 歳児 | 在籍合計 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 3～5 歳児 | 150 | 27 | 30 | 52 | 109 |

3. 理事・監事<平成22年度>

| 理事・監事 | 氏名 | 現職等 |
|-------|-------|--------------|
| 理事長 | 原田 延介 | 理事長 |
| 理事 | 原田 雄司 | 副理事長 |
| 理事 | 江副 功 | 長崎女子短期大学学長 |
| 理事 | 柳川 伸一 | 長崎女子高等学校校長 |
| 理事 | 藤樹 憲二 | 元長崎放送株式会社会長 |
| 理事 | 田中丸善保 | 佐世保玉屋株式会社会長 |
| 理事 | 小原 四郎 | 株式会社新日本不動産社長 |
| 理事 | 井口 國雄 | 株式会社あたご社長 |
| 監事 | 志賀 定義 | 医療法人清潮会顧問 |
| 監事 | 平山 寿則 | 平山税理士事務所所長 |

4. 理事会の開催状況<平成22年度>

| 開催年月日 | 主な議案 | 出席数 |
|-------------|---|--------------------------|
| 平成22年5月24日 | ①平成21年度事業報告 ②平成21年度決算報告 ③長崎女子短期大学附属第一幼稚園の廃園 ④第一幼稚園の廃園に伴う寄附行為の変更 報告事項・現況報告 ・小島特別奨学基金の運営状況 | 理事 8 (内委任状 1) 監事 2 |
| 平成22年9月28日 | ①任期満了に伴う理事の選任 ②任期満了に伴う監事候補者の選出 ③任期満了に伴う評議員の推薦・選出 | 理事 8 (内委任状 1) 監事 2 |
| 平成22年10月1日 | ①任期満了に伴う理事長の選出 ②平成23年度学納金 ③平成22年度予算の補正 ④長崎女子短期大学学則の一部変更 ③報告事項 ・現況報告 ・耐震補強工事等の進捗状況 | 理事 8 (内委任状 1) 監事 2 |
| 平成22年12月15日 | ①小島特別奨学基金の基本金設定額の変更 ②寄附行為の一部変更 ③報告事項 ・現況報告 | 理事 8 (内委任状 2) 監事 2 |
| 平成23年2月18日 | ①寄付（有価証券）の受け入れ | 理事 8 (内委任状 1) 監事 2 |

7. 学園合同会議

理事長の諮問会議として位置付けられる学園合同会議は、学内理事と監事及び各部門の幹部職員により構成され、定例的に開催している。ここでは学園（理事会）と短大・高校・幼稚園の教学が一体となって問題意識の共有を図っている。日常的な学生・生徒等の動向あるいは保護者からの要望等について共有すると共に、理事会提案事項等の調査研究、企画立案、調整を行うなどの機能をも果たしている。

○構成員

| | |
|-----|---|
| 構成員 | 理事長、学園長、副理事長、監事、短大学長、高校長、幼稚園長、高校副校長、法人本部長、短大事務長、高校事務長 |
|-----|---|

○平成 22 年度学園合同会議開催状況

| | 開催年月日 | 主な議案・報告事項 |
|-------|-------------------|---|
| 第 1 回 | 平成 22 年 5 月 11 日 | ①理事会・評議員会議案について ・H21 事業報告、決算報告、第一幼稚園の廃園部門別報告 ②学園合同会議規程について |
| 第 2 回 | 平成 22 年 6 月 23 日 | ①平成 21 年度募集計画について ②部門別報告事項 |
| 第 3 回 | 平成 22 年 9 月 16 日 | ①9/28 理事会・評議員会議案について ・任期満了に伴う理事、監事、評議員の改選 ②耐震補強工事等の進捗状況について ③部門別報告 |
| 第 4 回 | 平成 22 年 11 月 30 日 | ①12/15 理事会・評議員会議案について ・小島特別奨学基金の基本金設定額の変更 ・寄附行為の一部変更 ②現況報告 |
| 第 5 回 | 平成 23 年 1 月 12 日 | ①平成 23 年度募集見通しについて ②部門別報告 |
| 第 6 回 | 平成 23 年 2 月 16 日 | ①平成 23 年度募集見通しについて ②部門別報告事項について ③人事について ④平成 23 年度予算編成方針について |
| 第 7 回 | 平成 23 年 3 月 18 日 | ①理事会・評議員会議案について ・H22 予算の補正、H23 事業計画、H23 予算学園人事、短大学則の一部変更 ②部門別報告事項について |

8. 教職員（H22.5.1 付）

| | 理事長・学園長 副理事長 | 短大 | 高校 | 幼稚園 | 本部 | 合計 |
|------|-----------------|----|----|-----|----|----|
| 専任教員 | | 29 | 28 | 7 | | 64 |
| 専任職員 | 3 | 17 | 5 | 3 | 4 | 32 |
| 合計 | 3 | 46 | 33 | 10 | 4 | 96 |

9. 建学の理念・教育目標

(1) 建学の精神

－ 鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ －

中国の古典「詩経」の小雅篇の中の一節で、本学園の建学の精神である。鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達するという意味である。社会の中で人に知られなくても、地味だが現実に根ざして誠実に生き、学びつづけている人は、深い谷間で鳴く鶴の声が、やがて天の高みまで響くように、必ず人々から高く評価されるようになるということである。

本学園では、深い誠実な生き方を示す「至誠」を基本としている。

(2) 短大の学訓・教育目標・学位授与の方針

○学訓：「尽心・創造・実践」

「尽心・創造・実践」は、創立以来ただ一筋にたどってきた女子教育の流れの中から生まれてきたものである。即ち、常に至誠の心をもって事に当たり、「もの・こと」の本質を見つめつづけ、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創ることに努め、かつこれを単なる理念にとどめることなく実践することを意味する。

○教育目標

110 余年の輝く女子教育の伝統と歴史の上にたち、建学の精神に基づいて、深い学理の探求と優れた技術の練磨とによって、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を使命とする。

○学位授与の方針

本学の教育理念を理解し、教育目標を達成した学生に対し、以下の能力を修得したものととして短期大学士の学位を授与する。

- ・ 専門的な基礎知識と実践力を修得した者
- ・ 豊かな人間性と品性を身につけた者
- ・ 常に誠意と向上心を持って取り組み、創造していく能力を身につけた者

- ・学ぶことの重要性を認識し、生涯にわたって学び続ける生涯学習力を身につけた者
- ・グローバルな視野をもち、社会の平和と幸福に寄与する姿勢を身につけた者
- ・社会の一員として義務と権利を理解し、地域社会の発展に貢献する力を身につけた者
- ・社会生活を営むうえで必要とされるジェネリックスキルを身につけた者

(3)高校の校訓・教育方針・教育目標

○校訓：「真心・創意・共生」

○教育方針

創造的意志を大切にし、豊かな教養と人間性を育むとともに国際的視野に立ち、共に生きる思いやりの心を有する女性の育成を目指す。

○教育目標

- ①生命（いのち）の尊さを学び、やさしい心を育てる。
- ②自然と環境を愛し、人間尊重の精神を育てる。
- ③清らかな心を育て、品性の向上に努める。
- ④基本的な生活習慣を確立させ、精勤を奨励する。
- ⑤授業を大切にし、進路目標の達成に努める。
- ⑥個性を伸ばし、感性豊かな表現力を育てる。
- ⑦ねばり強く取り組む気力・体力を育てる。
- ⑧校内の美化と地域・社会への奉仕に努める。
- ⑨生徒会活動や部活動の活性化に努める。
- ⑩多文化との交流を深め、国際的視野を広める。

(4)附属幼稚園の教育目標

豊かな学園環境の中で、たくましく、やさしい、思いやりの心を大切に育てる。

- 表現豊かで創るよろこびをもつ子ども
- 明るく元気にあいさつのできる子ども
- 友だちと仲よく遊べる子ども
- あきらめずやりぬこうとする子ども
- いのちを大切に「ありがとう」の言える子ども

10. 学園の沿革

| 年 月 | 事 項 |
|--------------------|---|
| 1896(明治 29) 年 10 月 | 長崎女子学院を創立（市内出来大工町 27） 新潟県出身の笠原田鶴子が、欧米視察のため長崎に立ち寄った折、外国との交流のある長崎でありながら意外と女性の地位が低いことを痛感し、欧米視察を断念して、女子教育に情熱を燃やすことを決意した。 教師 4 名、生徒 2 名でのスタートであった。 |
| 1901(明治 34)年 4 月 | 伊良林町 77 番戸に移転、校名を「鶴鳴女学校」と改称 教師 8 名、生徒 50 名 「鶴鳴」の由来は、中国の詩経「鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ」の句による。また創立者笠原田鶴子の名に因んだものであった。 |
| 1906(明治 39)年 3 月 | 原田豊一第 2 代校長に就任 |
| 1912(明治 45)年 4 月 | 「鶴鳴実科高等女学校」と改称、定員 250 名 |
| 1918(大正 7)年 3 月 | 原田アサ第 3 代校長に就任 |
| 1920(大正 9)年 5 月 | 「鶴鳴高等女学校」に改称 |
| 1921(大正 10)年 2 月 | 校舎を現在地の上小島に移転 |
| 1925(大正 14)年 1 月 | 原田アサ校長、ロンドン留学（昭和 3 年帰国） |
| 1947(昭和 22)年 4 月 | 鶴鳴中学校設置 |
| 1948(昭和 23)年 4 月 | 学制改革で「鶴鳴女子高等学校」と改称（普通科） |
| 1951(昭和 26)年 3 月 | 学校法人鶴鳴学園と組織変更 原田アサ初代理事長に就任 |
| 1951(昭和 26)年 4 月 | 「商業科」を増設 |
| 1952(昭和 27)年 4 月 | 鶴鳴幼稚園が高校敷地内に開園、原田アサ初代園長に就任 |
| 1959(昭和 34)年 10 月 | 鶴鳴中学校廃止 |
| 1960(昭和 35)年 6 月 | 原田鶴代第 2 代理事長に就任 |
| 1960(昭和 35)年 12 月 | 原田寅次郎第 4 代校長に就任 |
| 1960(昭和 35)年 12 月 | 原田寅次郎鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任 |
| 1966(昭和 41)年 4 月 | 鶴鳴女子短期大学開学（家政科） 原田寅次郎初代学長に就任 |
| 1966(昭和 41)年 4 月 | 旭が丘鶴鳴幼稚園開園（弥生町） 原田寅次郎初代園長に就任 |
| 1966(昭和 41)年 10 月 | 学園創立 70 周年記念式典を挙行 |
| 1967(昭和 42)年 4 月 | 短大の家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離増設 |
| 1969(昭和 44)年 4 月 | 鶴鳴女子短期大学を長崎女子短期大学に改称 |
| 1970(昭和 45)年 4 月 | 短大の家政科家政専攻を家政専攻と被服意匠専攻に分離増設 |
| 1970(昭和 45)年 6 月 | 短大の学生募集低迷のため次年度の学生募集停止の決定をなす |
| 1970(昭和 45)年 11 月 | 短大の学生募集再開 |

| | |
|-------------------|--|
| 1970(昭和 45)年 11 月 | 長岡達第 2 代学長に就任 |
| 1970(昭和 45)年 12 月 | 川崎周之第 5 代校長に就任 |
| 1970(昭和 45)年 12 月 | 法人本部を設置 |
| 1971(昭和 46)年 4 月 | 原田慶子鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任 |
| 1971(昭和 46)年 8 月 | 原田延介第 3 代理事長に就任 |
| 1972(昭和 47)年 1 月 | 長岡達旭が丘鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任 |
| 1972(昭和 47)年 1 月 | 川崎周之鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任 |
| 1973(昭和 48)年 4 月 | 短大に幼児教育学科を増設 |
| 1973(昭和 48)年 4 月 | 原田延介鶴鳴幼稚園第 5 代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任 |
| 1975(昭和 50)年 10 月 | 学園創立 80 周年記念式典を挙 行 初代理事長原田アサ胸像建立 |
| 1977(昭和 52)年 9 月 | 短大体育館が完成 |
| 1978(昭和 53)年 4 月 | 藤田源次郎第 6 代校長に就任 |
| 1979(昭和 54)年 1 月 | 短大に新学生寮「若竹寮」完成 |
| 1979(昭和 54)年 4 月 | 原田延介第 3 代学長に就任 |
| 1979(昭和 54)年 4 月 | 原田慶子学園長に就任 |
| 1980(昭和 55)年 4 月 | 太田多美子鶴鳴幼稚園第 6 代園長に就任 |
| 1980(昭和 55)年 4 月 | 山川雅雄旭が丘鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任 |
| 1982(昭和 57)年 4 月 | 短大の家政学科家政専攻と被服意匠専攻を統合し生活文化専攻を新たに設置 |
| 1983(昭和 58)年 4 月 | 稲永侑三旭が丘鶴鳴幼稚園第 5 代園長に就任 |
| 1984(昭和 59)年 3 月 | 旭ヶ丘鶴鳴幼稚園の園舎が短大敷地内に新築移転 |
| 1984(昭和 59)年 4 月 | 稲永侑三鶴鳴幼稚園第 7 代園長に就任 |
| 1985(昭和 60)年 4 月 | 長谷川信第 4 代学長に就任 |
| 1985(昭和 60)年 4 月 | 長谷川信第 7 代校長に就任 |
| 1985(昭和 60)年 10 月 | 学園創立 90 周年記念式典を挙 行 |
| 1988(昭和 63)年 4 月 | 短大家政学科を生活科学科に生活文化専攻を生活情報専攻に改組 |
| 1988(昭和 63)年 4 月 | 法人本部を短大内に移転 |
| 1990(平成 2)年 4 月 | 菊谷元資第 5 代学長に就任 |
| 1990(平成 2)年 4 月 | 前田英昭第 8 代校長に就任 |
| 1993(平成 5)年 2 月 | 高校の校舎・体育館の外壁全面改装工事完了 |
| 1994(平成 6)年 4 月 | 江副功第 9 代校長に就任 |
| 1994(平成 6)年 4 月 | 前田英昭鶴鳴幼稚園第 8 代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第 6 代園長に就任 |
| 1994(平成 6)年 10 月 | 短大の新校舎完成 (100 周年の先駆け工事) |

| | |
|-------------------|---|
| 1995(平成 7)年 4 月 | 中西弘樹第 6 代学長に就任 |
| 1996(平成 8)年 10 月 | 学園創立 100 周年記念式典 記念事業として高校第二体育館新築・グラウンド整備工事が完成 |
| 1997(平成 9)年 4 月 | 鶴鳴女子高等学校を長崎女子高等学校に改称 進路別コースがスタート |
| 1997(平成 9)年 4 月 | 鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第一幼稚園に、旭が丘鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第二幼稚園に改称 |
| 1998(平成 10)年 4 月 | 田中正明第 10 代校長に就任 |
| 2000(平成 12)年 4 月 | 田中正明第 7 代学長に就任 (校長兼務) |
| 2000(平成 12)年 4 月 | 柳原邦弘長崎女子短期大学附属第一幼稚園第 9 代園長、第二幼稚園第 7 代園長に就任 |
| 2001(平成 13)年 4 月 | 短大の生活科学科に生活福祉専攻 (介護福祉士養成) を設置 |
| 2002(平成 14)年 4 月 | 犬塚光男第 11 代校長に就任 |
| 2004(平成 16)年 4 月 | 原田延介理事長 第 12 代校長を兼務 (犬塚光男副校長) 長崎女子高等学校「商業科」を廃止 長崎女子高等学校入学定員変更 (500→200) |
| 2004(平成 16)年 4 月 | 長崎女子短期大学附属第一幼稚園と第二幼稚園を統廃合し、長崎女子短期大学附属幼稚園となる (第一幼稚園休園) |
| 2005(平成 17)年 4 月 | 犬塚光男長崎女子短期大学附属幼稚園第 10 代園長に就任 |
| 2005(平成 17)年 9 月 | 短大 1 号館外壁全面改修工事完了 短大校舎と学生寮食堂連絡通路工事完了 |
| 2005(平成 17)年 10 月 | 財団法人短期大学基準協会の第三者評価訪問調査 10 月 20 日・21 日 |
| 2006(平成 18)年 3 月 | 財団法人短期大学基準協会の第三者評価において「適格」認定を受ける。 |
| 2006(平成 18)年 4 月 | 馬場正典第 13 代校長に就任 |
| 2007(平成 19)年 4 月 | 長崎女子高等学校入学定員変更 (200 名→170 名) |
| 2008(平成 20)年 4 月 | 江副功第 8 代学長に就任 |
| 2008(平成 20)年 4 月 | 柳川伸一第 14 代校長に就任 |
| 2009(平成 21)年 6 月 | 奈良県の奈良佐保短期大学と相互評価締結について調印 |
| 2010(平成 22)年 4 月 | 短大の生活福祉専攻を「介護福祉専攻」に名称変更 |
| 2010(平成 22)年 8 月 | 短大が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択される。 |
| 2011(平成 23)年 3 月 | 長崎女子短期大学附属第一幼稚園廃園 |
| 2011(平成 23)年 3 月 | 高校第一体育館・短大学生寮の耐震化工事が完了 |
| 2011(平成 23)年 4 月 | 短大の生活情報専攻を「生活総合ビジネス専攻」に名称変更 |

IV. 今後の課題について

入学年齢人口の減少という厳しい運営を強いられる状況下で、学園の存続を如何に図っていくかが大きな課題であるが、短期大学、高等学校、幼稚園を擁する総合学園として地域における存在を高めていかなければならない。

そのためには、高等学校での基礎的教育と短期大学での専門資格教育、そして5年間を通じた女性としての品性教育をなお一層推し進めることが大切である。幼稚園においては短大の附属幼稚園としての機能を高めることが、地域での評価に繋がることになる。

平成23年度入試においては、学校評価の最も基本的数値ともいべき志願者数が短大△43名(242→199)、高校△84名(393→309)と何れも減少した。入学適齢人口の減少或いは地域経済の低迷という厳しい募集環境下ではあるが、地域に求められる短大、高校、幼稚園としての在り方を再構築しなければならない。

しかしながら、今後は、学生、生徒、園児の確保には限界が予想されることも視野に入れておかなければならない。その中で教育の質の低下を招かないよう配慮しながら教職員体制、施設設備、カリキュラム等については常に見直し点検を行い、適正規模での運営を心がける必要がある。

以上